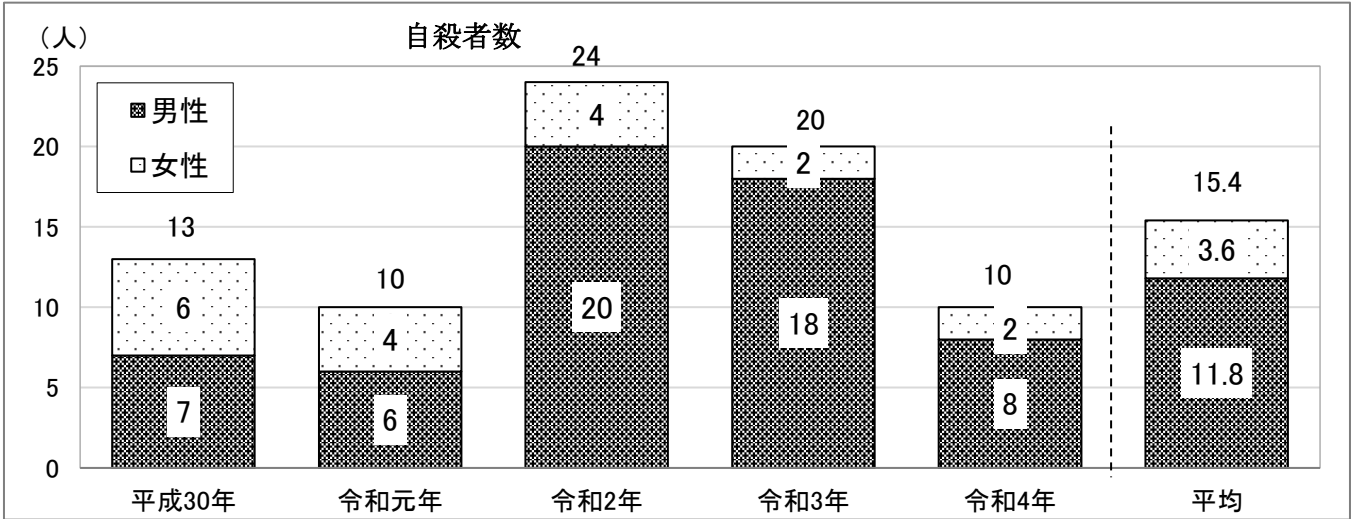


【参考資料 1】

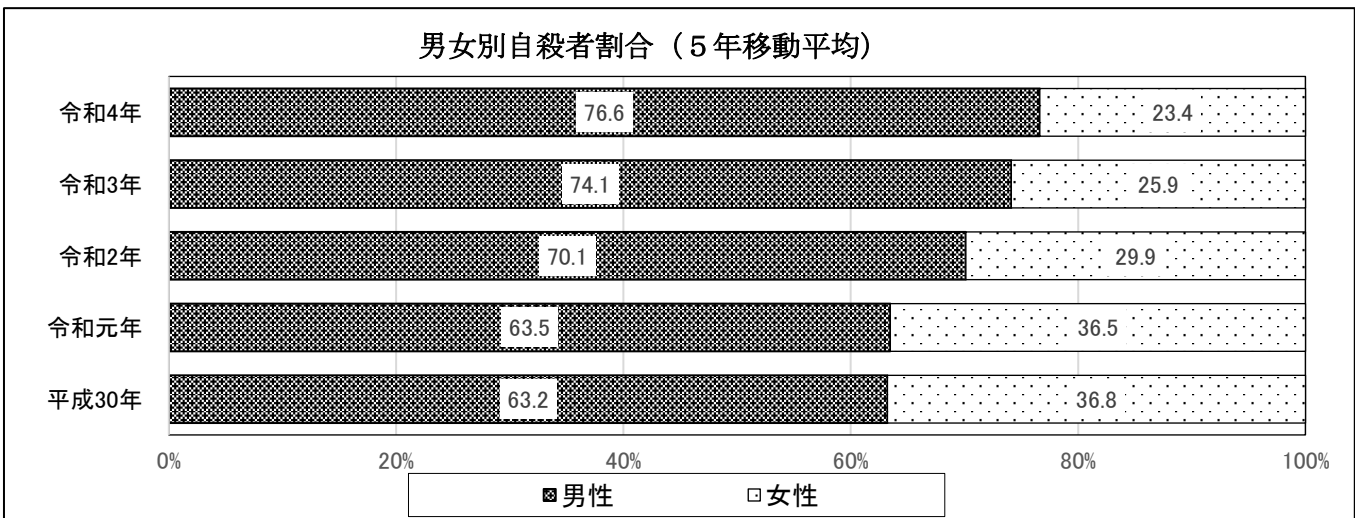
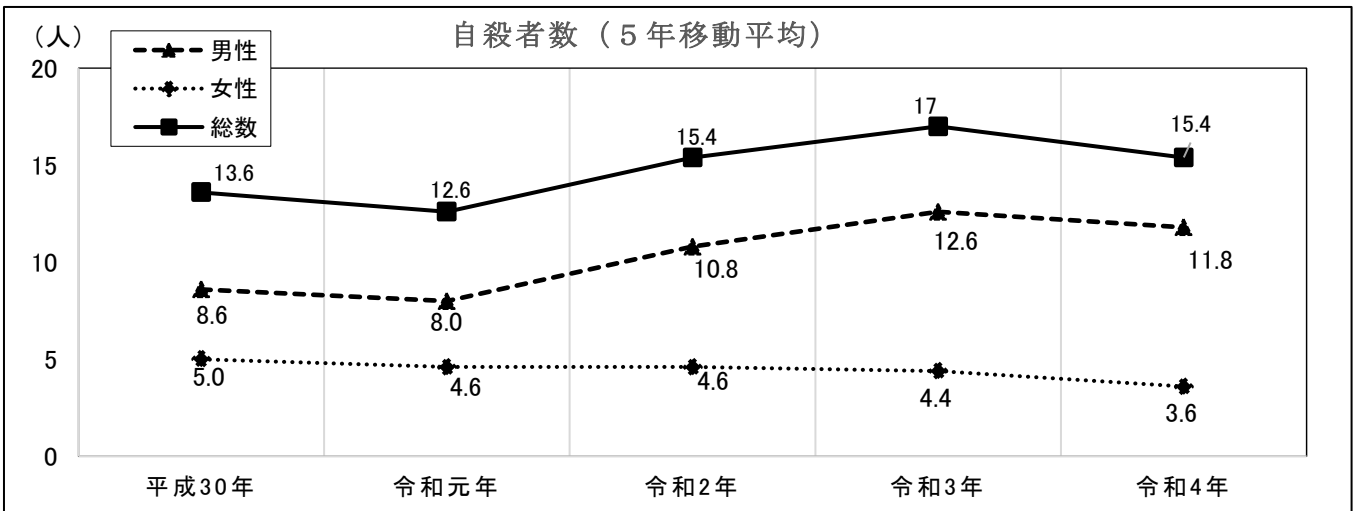
あま市の自殺に関する統計

(内閣府・厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」より)

1 自殺者数の推移

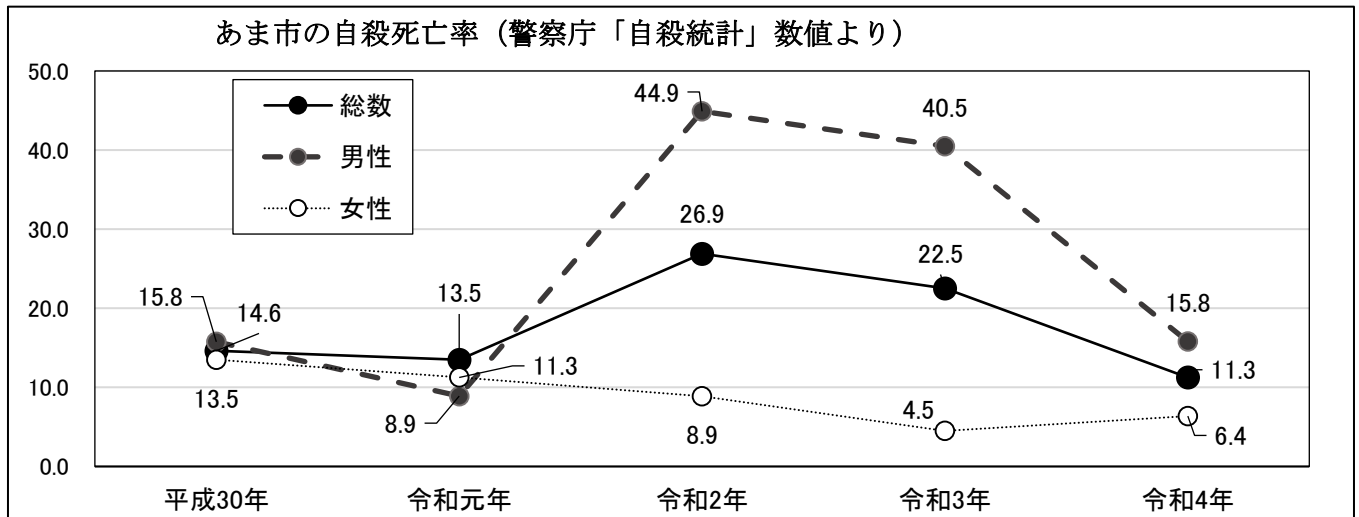


本市の自殺者数の推移は、令和元年まで減少傾向でしたが、令和2年には過去最高の24人、令和3年は過去2番目の20人となり、新型コロナウイルス感染症禍において、大きく増加しましたが、令和4年には新型コロナウイルス感染症禍前の令和元年と同じ10人まで減少しています。また平成30年から令和4年までの平均の自殺者数は、総数15.4人で、そのうち男性が11.8人で女性3.6人の約3倍となっています。(警察庁「自殺統計」数値)

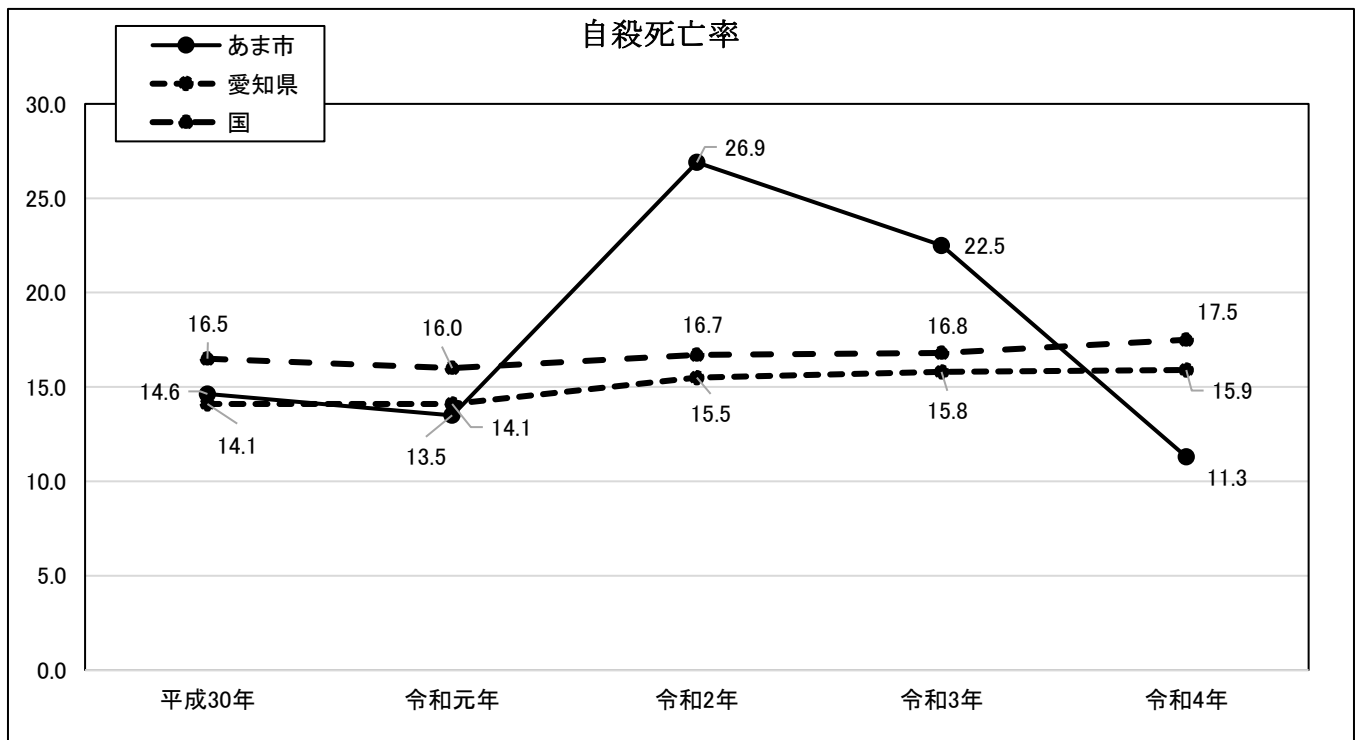


※移動平均とは、変化しているデータをある範囲の和をその個数で割り、その平均値をつなぎ合わせたもので、グラフにおいては、示されている年の過去5年間の和を5で割った平均値となっています。

2 自殺死亡率(人口 10 万人対)の推移



令和4年	【国】	全体	17.5	(男 24.3 女 11.1)
	【県】	全体	15.9	(男 21.2 女 10.4)
	【あま市】	全体	11.3	(男 15.8 女 6.4)



人口 10 万人対で算出した自殺死亡率の推移では、令和2・3年は自殺者数が増え、自殺死亡率も高くなり、特に男性の自殺死亡率が高くなっています。

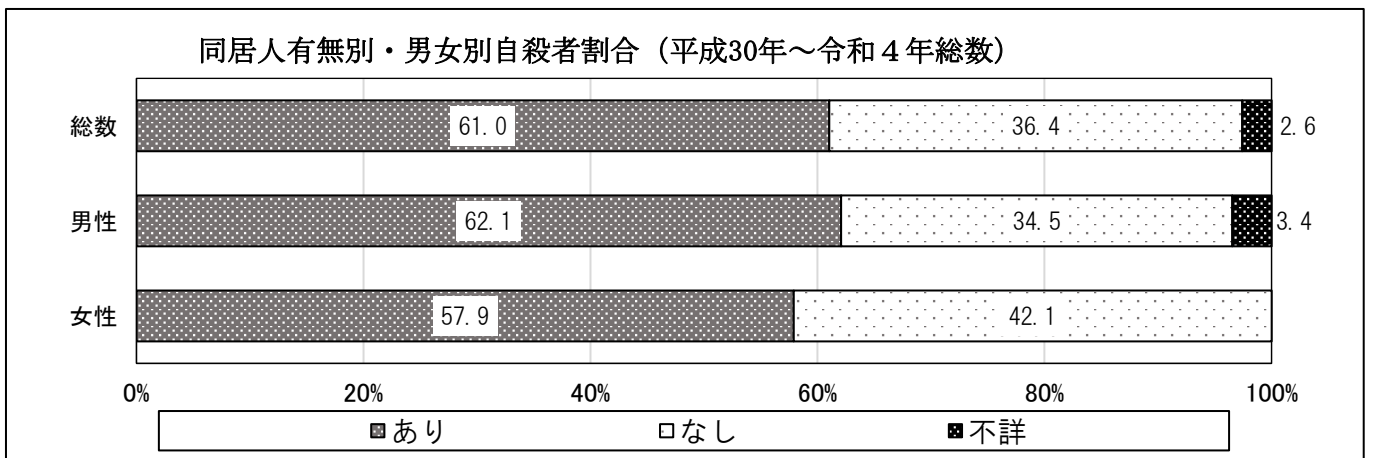
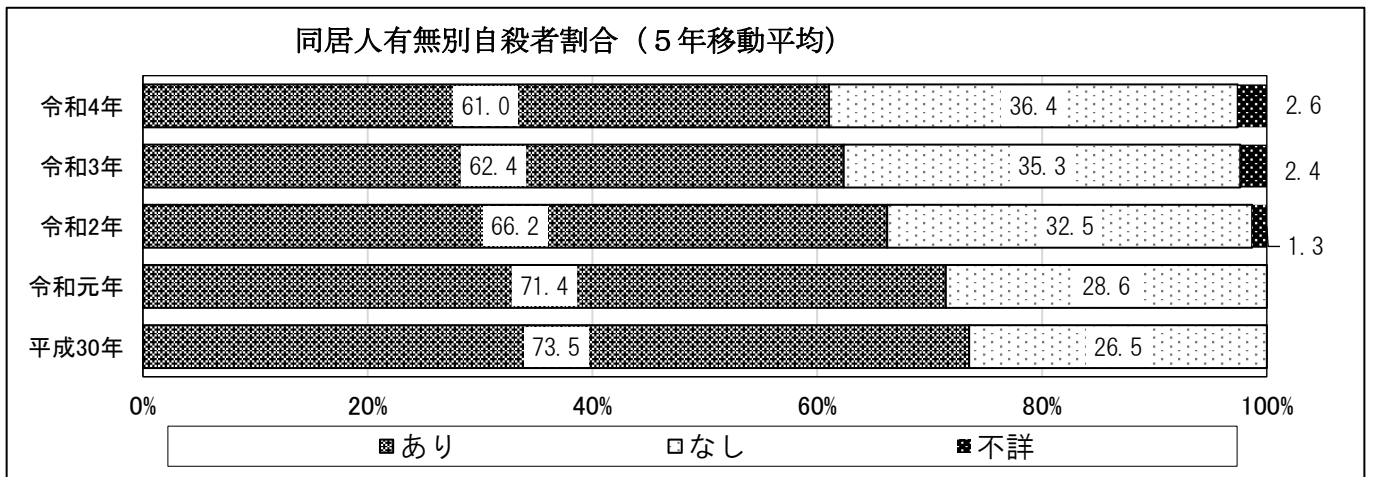
また、国・県の自殺死亡率と比較すると、令和2・3年は大きく上回っていましたが、令和4年には、国・県と比較して低く、平成 30 年以降、最も低い値となっています。

3 年代別自殺者数の推移

年代\年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年
19 歳以下	0	1	1	0	1
20 歳代	1	1	4	1	2
30 歳代	2	1	2	2	1
40 歳代	1	1	4	3	1
50 歳代	1	2	3	8	3
60 歳代	3	1	3	0	0
70 歳代	5	2	2	5	1
80 歳以上	0	1	5	1	1
不詳	0	0	0	0	0
合計	13	10	24	20	10

毎年、60 歳代以上の高齢者の自殺者数が多くなっています。令和2年以降の新型コロナウイルス感染症禍では、働き盛りの年代である 40・50 歳代の自殺者数が増加しています。
また、令和元・2・4年に 19 歳以下に 1 人ずつの自殺者がありました。

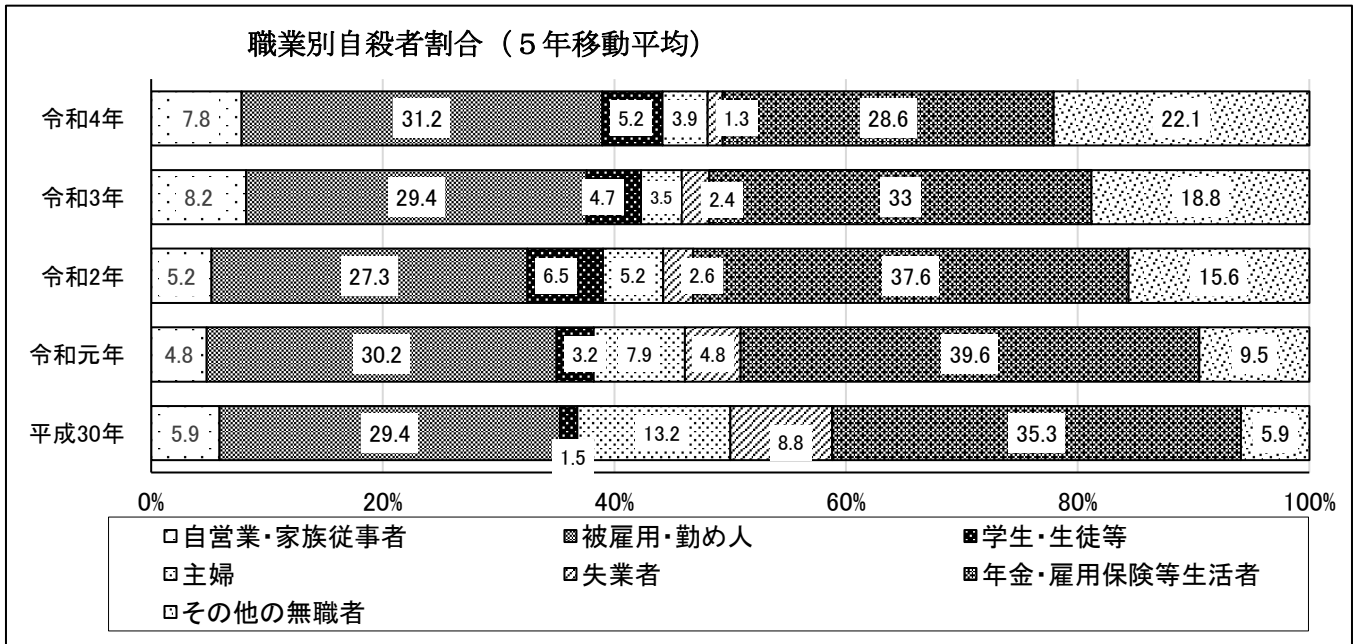
4 同居人有無別自殺者割合の推移



同居人有無別自殺者割合の推移は5年移動平均で、平成 30 年・令和元年は、7 割以上、令和 2 年以降は 6 割が同居人「あり」で、少しずつではありますが減少傾向にあります。

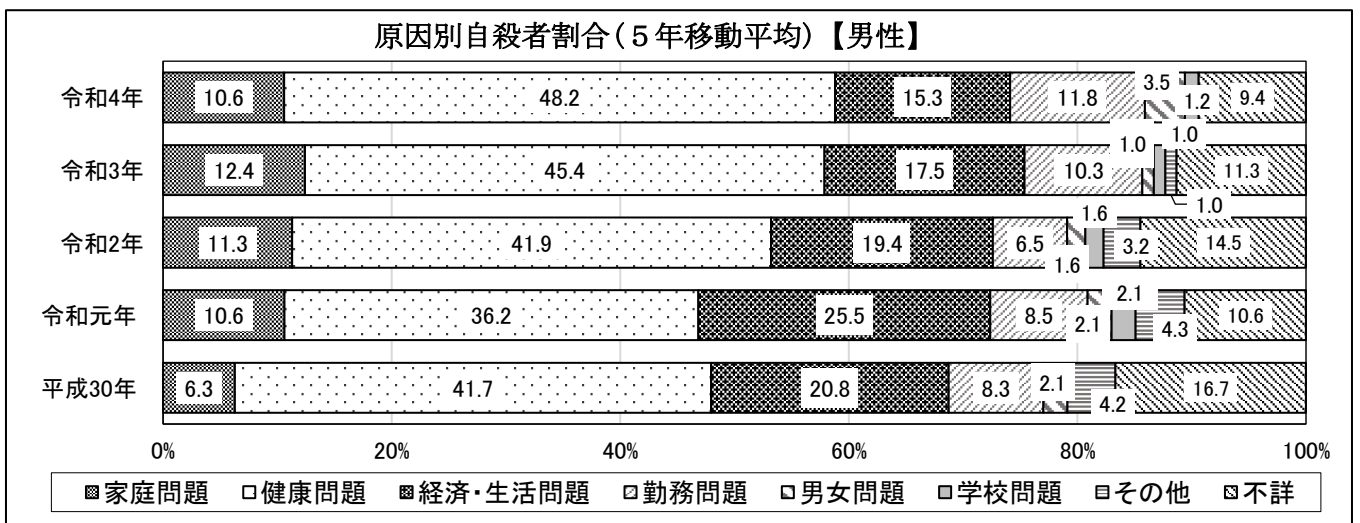
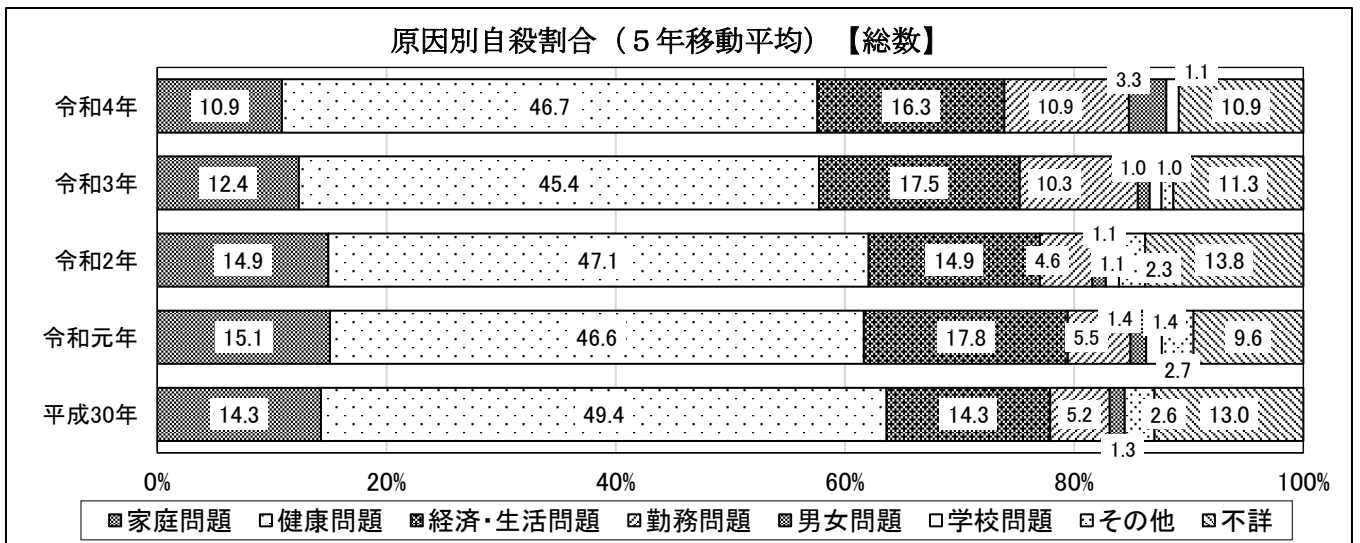
平成 30 年～令和 4 年総数の同居人有無別・男女別自殺者割合では、男性 62.1%、女性 57.9%が同居人「あり」であり、女性より男性が高くなっています。

5 職業別自殺者割合の推移

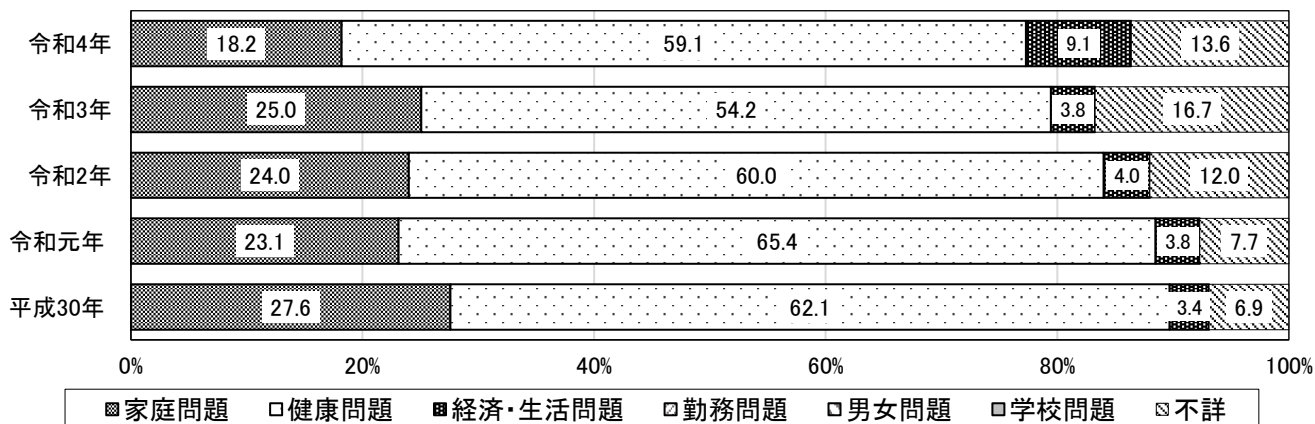


令和3年までは「年金・雇用保険等生活者」の割合が高かったが、令和4年は「被雇用・勤め人」の割合が高くなっています。また、「失業者」の割合が減少し、「その他の無職者」の割合が高くなっています。

6 原因別自殺者割合の推移



原因別自殺者割合（5年移動平均）【女性】

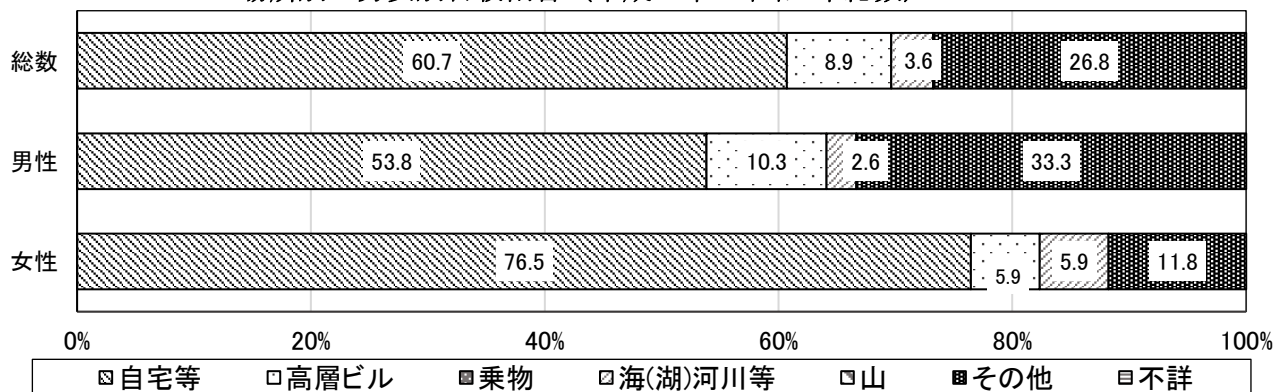


原因別自殺者割合では、「健康問題」の割合が毎年、高い状況であり、「家庭問題」と「経済・生活問題」と合わせて約75%を占めています。そのような中、令和3年以降は「勤務問題」の割合が高くなってきています。

男性では「健康問題」「勤務問題」が増加傾向、女性では令和4年に「経済・生活問題」が5.3ポイントの増加がみられました。

7 場所別・男女別自殺者割合

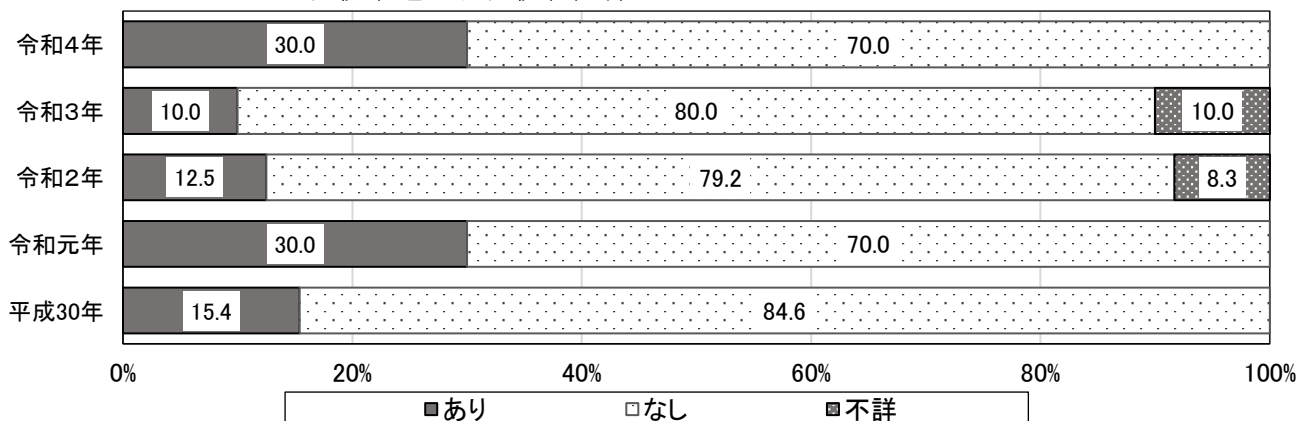
場所別・男女別自殺割合（平成30年～令和4年総数）



場所別自殺者割合では、「自宅等」の割合が高く、令和4年は約60%となっています。男女別では、男性より女性の方が「自宅等」の割合が高く、男性では「その他」が高くなっています。

8 未遂歴別自殺者割合の推移

自殺未遂歴別自殺者割合



未遂歴別自殺者割合の推移は、年によってばらつきがありますが、毎年7割以上が「未遂歴なし」であります。